

第三十六号（令和八年十月）

伊藤ひろし県議会報告【実績】 救急医療機関の水道管路の耐震化

「大地震でも「水が止まらない」持続可能な医療体制へ」

私は、県議会で、病院へ水を届ける大切な「水道管路」を優先して、地震に強くすることを求めています。習志野市内のＪＲ総武線より南側地域には、中核病院が３病院（津田沼中央・第一・谷津）あります。いずれも、県営水道が「水」を供給している病院です。



●水道管路の耐震化・・・地震の揺れによって、水道管の「つなぎ目」が外れるなどすると、そこから水が漏れ、断水につながります。そこで、地震の揺れに強い「水道管」や「つなぎ目」が外れにくい「水道管」に交換します。

耐震化したい管路の距離は、 3000 m

●現状・・・県営水道地域では、市内3病院と習志野市役所（防災拠点）への水道管路の耐震化に取り組んでいます。

- ・令和4年度 1700 mまで工事完了
- ・令和8年度 2100 mまで工事完了
- ・未耐震 残り 900 m

【お伝えしたいこと】



地震被害が起きてから直すのではなく、地震が起きる前に、水道管路を強くします